

まぎの郷

通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

September 2021

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/創cafe/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>



伊太祁曾神社にお散歩



還暦のなかまのお祝い

はぐるま共同作業所



パン販売の袋製作



パンの製造



クッキー製造風景



クッキー商品



私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



「なんで産まれてきたのかなあ。」「なんのために生きてるのかなあ。」と、自分の子どもに尋ねられる事がたまにある。それっぽい事を言ってみるものの、本人の想いはやけにまっすぐで私のうわつつらの言葉が届くはずもなく、結局いつも最後はお互いに「なあ…」と言って終わる。私の大好きな故 上杉文代先生が以前子育てに悩む人への言葉として「一緒にオロオロすることが大事」とどこかで言ってきていたように思う。その言葉を支えに「ま、いいか。」と過ごしているのだが、この研修ではそれを少し手繰り寄せられるような気がした。

第1回目の研修は7月20日、山本耕平理事長に講師をお願いし「麦の郷の理念と実践」についてお話しただいた。作っていただいた資料をプロジェクターで見せていただく予定だったのが、なぜかスクリーンに文字が反転したまま戻らないというしょっぱなからの大ハプニングの末、結局理事長が長時間ずっと立ちっぱなしで大汗をかきながら口頭ですべてをお話しただくという大変なご苦勞をおかけし、資料は印刷したもので皆さんにお渡しした。だが、研修は参加者一人ひとりの感想や発言に、理事長から一人ずつにお話しただく素晴らしい研修となった。表題は参加者のレポートから引用したもので、みなさんのレポートを読ませていただくと麦の郷が大切にしてきたことや出発からの歴史など、理事長の想いがみなさんにしっかり届いていると感じる。

第2回目は8月6日、講師をくろしお作業所施設長 城 喜貴さんをお願いし、実践から見る発達保障「共に育つ」をテーマにお話し頂いた。なかまと共にどどん外に出かけ、地域の方々と繰り返し交流を重ね、地域を創り上げていく。まさに麦の郷の根源とも言えるその実践の強さには、講師



の静かな物言いの中にある揺るがない熱い思いが感じられた。「なかまに教えてもらい、助けてもらい、お互いが尊敬しあいながら、今、一緒にいるなかまと喜び、怒り、悲しみ、楽しむことを精一杯共感する。」この言葉がストン、と胸に落ちる気がする。

研修の終わりには講師のお二人に、はぐるま共同作業所の製パン部のなかまで作った、「ありがとう」の言葉の入った巨大あんぱんをプレゼントさせていただきました。巨大あんぱんはご注文を承っております。(笑)

15名の参加者のみなさんからもそれぞれの想いをたくさん聞かせていただき、企画や司会をしていた私には講師のお二人を含めた参加者のみなさん全員が私にとっての講師のようでした。素敵な時間を共有させていただいたことに感謝しています。

(教育研修委員会 浦口郁子)

きょうされん第45回全国大会 in東北・いわて大会

来年きょうされん第45回全国大会in東北・いわて大会が行われます。大会に向けて資金作りの一環としてグッズ販売をしていることを知り、ぜひ大会に向けた思いや取り組みについて聞かせて頂けないかと大会事務局である栗田さんに記事を書いて頂きました。2020年に行われる予定だった和歌山大会は残念ながら中止となってしまいました。いわて大会の開催に向けて和歌山大会の分まで私たちも応援しましょう！

(おぎピース 岡本)

きょうされん第45回全国大会in東北・いわて大会事務局の栗田誠と申します。この度は、おぎの郷通信にお招きいただき、感謝申し上げますとともにこの場をお借りしまして、いわて大会についてのご説明をさせていただきます。本来であれば、昨年和歌山できょうされん全国大会が開催されるはずでした。大会開催に向けての準備を進めている中での中止を余儀なくされた和歌山のみなさんの思いを汲んで2022年9月30日、10月1日に岩手県陸前高田市を舞台に開催させていただきます。

東日本大震災発災直後から全国のきょうされん会員の皆さまには被災地にいち早く職員を派遣していただき、数年に渡って、継続して被災地を支えてくださいました。当時、皆さんの生活も大変な状況だったと思います。作業所の運営も大変な中、職員さんを継続し

て派遣していただいたご苦勞は並大抵のことではなかったと思います。

東日本大震災、新型コロナウイルス、ここ10年の間に2つの大きな危機に私たちは直面しました。災害時や新型コロナウイルスを経験し、一層鮮明に感じたことは社会的弱者が置き去りにされていく社会の矛盾や政策の課題です。その矛盾や課題を明らかにし、すべての人の命と人権を大切にすまちづくり、社会づくりについて、ともに学び合いたいと思います。

7月3日に第1回実行委員会を開催致しました。実行委員長には戸羽太陸前高田市長、大会メインキャラクターには、昨年のゆるキャラグランプリで優勝した「たかたのゆめちゃん」を採用しました。大会の資金づくりの一環として「たかたのゆめちゃん」を使用した大会公式グッズの販売Webサイトを立ち上げておりますので、是非、<https://k45iwate.official.ec/> を覗いていただき、応援をお願いします。

もう一度、全国の皆さんと集い・つながり・学び合うことを信じて、準備をすすめていきます。2022年9月30日・10月1日岩手県陸前高田市でみなさまのご参加をお待ちしております。

(きょうされん第45回全国大会in東北・いわて大会実行委員会事務局長(きょうされん理事)栗田 誠)



き早めの給食をしっかり食べてとうとう集団接種です。休憩室の窓をオープンにして冷房をマックスに設定、出来る限りのソーシャルディスタンスを考慮した机の配置と勿論全員マスク着用。先生を待ちます。しばらくすると先生と看護師さんがワクチンをもってやってきました。簡単なおいさつの後看護師さんは接種の準備を始めます。先生が小声でスタッフに尋ねます「注射が嫌で騒いだり暴れたるする人はいませんか？」スタッフも小声で答えます。「はい、大丈夫です」「わかりました」初めての環境に先生も慎重に対応してくれます。先生の聴診器の後看護師さんが注射するという流れで接種は実にスムーズに行われ23名の接種が無事終了しました。ワクチンを接種した人はしばらくゆっくり過ごしたのち帰宅していきます。今日は特別にお迎えに見える保護者もいたり、不安と緊張の一日はなんとか過ぎました。

麦の郷を知ってくれていて、事業所がおかれている状況に合わせて対応してくれる。「頼って応えてくれる」一番近い医療が地域医療で頼もしくありがたい存在だとつくづく感じた一日でした。

(はぐるま共同作業所 和の杜 大中 一)



辞令交付式

麦の郷は、法人の運営をより発展させていく為に、7月1日付で、総括事業部を設け鈴木栄作さんを部長に任命しました。また、相談支援部長に上田路子さんを任命しました。さらに、和歌山生活支援センターの南部恵理さんを正職員に任命しました。6月28日に、この三人への辞令交付式を行い、南部さんが力強い今後の誓いの言葉を述べられました。

(一麦会理事長 山本 耕平)



地域のお医者さんが出張ワクチン!

6月初旬コロナワクチン優先接種の順番が私たち福祉施設にもとうとう回ってきました。

事業所独自のアンケートを行い接種を希望する23名の利用者を対象に医療機関での集団接種を検討している最中グループホームからの情報で地域の医院でワクチンの接種を行ってもらえるという情報が舞い込んできました。その医院は和の杜から徒歩5分です。早速問い合わせてみますと「麦の郷さんよく知ってますよ！予防接種大丈夫ですよ」と嬉しい返答が返ってきました。接種希望23名の集団接種について医院と調整を進める中「そちらに全員が接種できるスペースがあれば先生と看護師で射ちに行きますよ」とのありがたい提案が医院からなされました。思いもよらぬ展開です。国内でようやく始まりかけていた職域接種です。

接種日当日、今日は午後から和の杜にお医者さんと看護師さんがやってくるということでみんな微妙にソワソワしています。はぐるま給食さんにご協力いただ

夏といえば、デイキャンプ！

ハートフルハウス 創



頭に金魚すくいの子を付けて、それを的に水鉄砲でねらい撃ち！



グルグル回って、スイカまでたどり着けるか？！

BBQ や水鉄砲対決、川遊び、スイカ割り等、夏と言えば！ということのを思いっきり詰め込んだ一日！創には、このような活動を思春期・青年期時代に十分に経験できなかったメンバーが多くいます。「自分が自分であっていい」という自我同一性の確立の要素として、仲間とともに、はしゃいだり挑戦したり失敗する経験が大きな力になります。創ではこれからも、メンバーのやりたい事や思いを大切にしながら、みんなで楽しい活動を創っていききたいと思います。

(ハートフルハウス 創 圓山 歩実)

夏だ！プールだ！

こじか園

昨年から新型コロナウイルスが蔓延し、いろいろな活動が制限され、こじか園でも日々保育で対策を行い、どうすればコロナ対策をした上でできるのかを考えています。夏ならではの遊びの一つのプール遊びは、監視員を配置し水の塩素の管理や遊んでいるプールの中が密にならないよう、プールでの事故やコロナ対策を注意しながらプール遊びを行っています。限られた時間の中で 35 人の子どもたちが遊ぶため、グループごとに順番や時間を決めていきます。人数制限をしながらの中でみんな一緒に一つのプールに入って遊ぶことはできませんが、子どもたち



は、大プールや小プール、タライなどを使い行き来しながら、バタ足をしたり、かけっこをしたり、桶に水を流しボールを転がしています。また友だちや保育士と一緒に水のかけあいをし水の感触を感じプール遊びを楽しんでいます。夏ならではの遊びをたっぷり楽しみ、秋への遊びにつなげていきたいです。

(こじか園 滝本 容子)

おたのしみ保育

第二こじか園



8月6日に5歳児でお楽しみ保育を行いました。午前中は、お弁当を持ってわんぱく王国へ。自然の中での水遊びは、「ツメターイ」でも「タノシー！」とたくさん遊びました。

午後は買い物やミニ夏祭り、みんなで育てたスイカでスイカ割り。一つ目の中身は真っ白！二つ目は割れると真っ赤なスイカで子どもたちから笑顔と歓声があがりました。花火をする頃には雨も止み、噴出花火に「キレイ」と笑顔を見せる子どもたち。手持ち花火は苦手な子どもも、保育者と一緒に花火の光や色の変化を楽しんでいました。残念ながら1名欠席でしたが、不安になりながらも夜遅くまで共に過ごした特別な時間は、忘れられない夏の思い出になったと思います。(第二こじか園 中谷 愛)

ほーと上映会 ～コロナ禍でもやってみよう企画～

麦の郷和歌山生活支援センター

当センターでは、日中の居場所とレク活動を主に行っています。コロナ禍前はおやつ作り、茶話会、車での遠出(外食付き)レクに人気があり活動も賑やかでした。しかし長引くコロナ禍において感染対策を考慮した企画を考えることにスタッフ一同、頭を悩ませています。

またボランティア事業の一つとして、ボランティアさんが隔月で主催してくれていた『はーとカフェ』も休止しています。しかしボランティアさんもこのまま何もしないのはよくない、コロナ禍でも何かできるとミーティングを重ね、大声を出さず、飲食せずに支援センター内でDVDを観るというアイデアができました。早速企画し、昨年8月より隔月で、13:30からボランティアさんも一緒に鑑賞し、参加者には終了後にお菓子のお土産つきで開催をはじめました。

その後参加できるなかまの幅を広げる為、平日 15:30 からにしてみてもどうかと考え、今年の5月より偶数月は 13:30、奇数月は 15:30 の開始で毎月開催しています。

鑑賞するDVDは、ボランティアさん提供分とセンター所有のDVD(映画、アニメ、お笑いなど)があり当日の参加者が選びます。アニメが多いですが、わかりやすく楽しいと、またお土産も楽しみのひとつです。雰囲気を変えてプロジェクターを用いて鑑賞した時は映画館の気分も味わえました。

今では毎月の定例企画となった、『はーと上映会』。まさにこころのこもった企画になりとても嬉しく思っています。このレクがコロナ禍での楽しみのひとつ、またコロナ収束後も継続できればと願っています。

(麦の郷和歌山生活支援センター 南部 恵里)



ゆめやり×紀の川生活支援センター多肉植物講座について

麦の郷紀の川生活支援センター



去年好評だった、多肉植物の寄せ植え。センターのメンバーさんの「もう一回やりたいよ」という声から、今年も講座が開催されました。紀の川生活支援センターの2階で、7月5日(月)メンバーさん5人と職員3人、実習生1人、台丸谷先生をお迎えして、寄せ植えを教えてくださいました。

みんな思い思いの多肉を選んで、かわいいステキな寄せ植えができました!! (麦の郷紀の川生活支援センター 川村 ゆり)

野菜作りみんなで頑張ってます！

くろしお作業所

くろしお作業所には3つの班があり、そのうちのひとつもも班の行っている作業を今回は紹介したいと思います。もも班では農作業をメインに置き、年間を通して季節の野菜を作り、販売を行っています。土作りから、必要な材料を揃え、植え付け、収穫、片付けまですべて仲間の手で行っています。ですので、野菜を収穫するときの感動もひとしお、野菜収穫したよーと野菜を誇らしげに掲げる仲間達はとっても輝いています。手探り状態の中から始めた野菜作り、最初は不安の方が大きかったのですが、収穫した野菜を購入してくれた方からの美味しかったよの声を貰うたび、自信がついてきた仲間達。販売にも力が入り、背中がとっても逞しく感じられます。これからも自信を胸にみんなで野菜作り頑張っていきたいと思っています。



(くろしお作業所 川崎 愛香)

麦の郷居住福祉事業所 生活支援員研修会



7月12日12時より一麦会研修委員会委員長 鈴木栄作氏を招き、麦の郷居住福祉事業所の生活支援員を対象とした研修会を麦の郷にて開催しました。

コロナ禍による研修であったため、例年は麦の郷居住福祉事業所の生活支援員、夜勤者、世話人が参加して大勢でおこなってききましたが、今回は生活支援員8名に限定して開催としました。また当初は4月の予定でしたが和歌山県の感染者が増加傾向にあったため延期するなど、やはり通常とは異なる研修会の運びとなりました。

講師より事前に研修参加者にアンケートをおこない、ホームでの仕事に対するやりがい、悩み、やっていきたいことなどを確認してすすめていきました。

その中の悩みのひとつとして、自立と支援のバランスの難しさについて語っていたことが印象的でした。仲間にとって望んでいないこと、求めていることでも、スタッフが良かれと思っておこなっていないか？それは本当に支援と言えるのか？独りよがりではなく仲間、かかわるスタッフみんなで話し合っって支援内容を築いていくことが、ひいては風通しのよいフラットな現場環境が必要であるということをお話ししてくれました。

また最後には、優生思想に基づく強制不妊訴訟や津久井やまゆり園の殺傷事件からみる障害者の人権問題を現状の情勢と合わせて熱く話してくれたことも印象に残りました。

昨年はコロナ禍において研修会は中止となりましたが、2年分に匹敵するよい内容で幕を閉じたと感じます。まだまだコロナ禍が続くため研修会も普段通りの開催は難しいですが、やれる時期や対策、方法を考え実施または参加していこうとおもいます。そして学ぶ気持ちまでが、コロナで折れないよう思いを太くしていくことが大事だと感じました。



(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)

自信や前向きな気持ちが生まれた書道講座

連続講座『楽しもう 自分の書』(6～7月開催。全3回・計15時間)に、5名が参加しました。今秋、和歌山県内で紀の国わかやま文化祭2021・第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会が開催されます。講座の最終回には、そのキャッチフレーズ『山青し海青し文化は輝く』を題材に、講師の名倉くみ子さんと5名とが心を込めて一緒に作品を制作。大きさは約縦3m×横6mの大きな紙で、しかも、全員が大きな筆を使って大きな文字を書くのは初めて。本番になると、「緊張するわ」「うまく書けるかな」不安そうな声が聞こえてきました。名倉さんの経験豊かなご指導のもと、参加者自身が書きたい字を選び、水書道で練習を何度もおこない、参加者同士が励まし合っって一生懸命に取り組みました。作品が完成すると、そ



れぞれの個性が光り、しかも和歌山らしさがいきいきと表現されていました。「楽しかった」「お金で買えない、貴重な経験が出来た」「当日の会場で作品をみんなで見るのが楽しみ」と、嬉しく誇らしい表情が参加者全員から溢れ出ていました。「名倉さんと一緒に助手できそうや」。今冬には、名倉さんが講師の書道講座が開催予定で、今回参加してくれたメンバー数名が助手をしてくれることになりました。この講座をきっかけに友情や自信を育み、新たな挑戦をするなかまをこれからも応援していきたいです。

(ゆめ・やりたいこと実現センター 尾方 千春)



オープンカフェ風車 おかげさまで20周年

わたしの職場の風車は、有機の美味しい野菜や果物を販売する産直市場「ファーマーズマーケット紀ノ川ふの丘(紀ノ川農協運営)」のお隣でカフェをしています。ふの丘で売っている食材を使用してうどん、コロッケ、サンドイッチ、季節の果物を使ったスムージー等を販売しています。1食500円のお弁当は好評で日替わりメニューを作り、皆で分担して提供しています。

忙しいときは、職員と仲間同士でもお互い言葉が強くなることもあります。それで衝突することもあります。このようなときは互いに十分理解できなくても根気よく早めに話しあい、積み重ねてきた時間と信頼が解決してくれます。これからも明るい職場づくりを目指し頑張っていきたいです。最後になりましたが、これまで支えて頂きました全ての皆さんに感謝申し上げます。(オープンカフェ風車 中澤あかね)



ちょっとリニューアルした 麦の郷和歌山生活支援センターへ みなさんおこしく下さい

お昼どきになるとランチを食べている人。今の季節だと、テレビは高校野球やパラリンピックが映っています。ここは貸しビルの1階。麦の郷和歌山生活支援センターがここで活動するようになって、早いもので10年が経ちました。障害のある人をはじめ、ボランティアさんや関係機関の方々、みなさんが気軽に来てもらえる地域の拠点になることをめざしてきましたが、いつも多くの皆様に支えていただき、ありがとうございます。

お知らせが遅くなりましたが、5月から2階の部屋も借りています。2階は相談室と事務所になりましたので、1階には5畳ほどの和室をつくることができました。しばし横になったり、静かに読書したり。にぎやかな活動のあるとき、少し離れていたい人も居られるスペースになったかと思えます。

コロナがまだまだ収まりませんが、工夫をしながらカフェミーティングや夕食サービスも続けています。どうぞ、お立ち寄り、お問い合わせください。(麦の郷和歌山生活支援センター 江上 直子)



* むぎ・わくわくレポート 16 *

はぐるま共同作業所和の杜の職員会議でちょくちょく飛び出すのが「毎日が吉本新喜劇」という関西人が聞けばわりと明確にニュアンスの伝わるキーワードです。ちょっと不謹慎に思われる皆さんもいらっしゃるかも。しかしこのキーワードは和の杜の毎日の活動をととても分かりやすく的確に表現しています。

朝8時半「おはようございます!!」利用者がやってきます。新喜劇開演の幕があきます。「OOさんがお弁当を忘れてらしい」「OOさんがトイレから出てこない」「給食申し込んでいないOOさんが給食を食べています」「大豆の袋をひっくり返して原料庫は大豆の海です!」シナリオのないドタバタが常にどこかで起こります。演者の利用者と職員は劇中でひとつひとつのドタバタを解消し15時半「おつかれさん!」軽快な音楽とともに幕が下ります。毎日それぞれの事業所でそれぞれのシナリオのない「吉本新喜劇」が展開されている。ちょっと想像しただけでも笑顔になりません..?? (はぐるま共同作業所和の杜 大中 一)



築野食品より寄付お礼

築野グループ株式会社 代表取締役社長 築野富美様から、オープンカフェ風車 20周年のお祝いを頂戴いたしました。2021年 6月で 20周年を迎えた風車は、地元の食材を積極的に活用したお食事を提供してきました。その中でも人気商品であるコロッケや天ぷらなどは築野食品工業さんのごめ油を開店当初から使用してきました。からっとおいしい食感に仕上がるうえに酸化しにくく、食後のもたれなども防いでくれる優れた油です。これからも風車にとって無くてはならない食材のごめ油を使って、多くのお客様に喜びを提供していきたいと思えます。ごめ油は併設のファーマーズマーケット 紀ノ川ふうの丘でお買い求め頂けます。

(ソーシャルファームもぎたて 中原 力哉)



四箇郷北小学校 児童保健委員会の皆さん ありがとうございました



4月 7日、四箇郷北小学校の児童保健委員会の皆さんより、新型コロナウイルス飛沫防止パーテーション7枚のご寄付を頂きました。

校長先生と山崎先生が来所され、5年前に車いすを寄贈していただいた後も引き続き「くろしお作業所のみんなが喜んでいただける品物を届けたい!」と毎年生徒さんたちが「空き缶

回収運動」を続けてくれていたことをお話していただきました。

活動をしていただいた皆様一人一人に感謝の気持ちでいっぱいです。

皆さんの想いがたっぷり詰まったこのパーテーション、仲間みんなを守ってくれと思います。大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。

(くろしお作業所 仲間・職員一同)

24時間テレビ車両御礼

報告が遅くなりましたが、この令和 3年 3月 3日、24時間テレビチャリティー委員会様より、リフト付き福祉車両をくろしお作業所に寄贈していただきました。くろしお作業所では送迎を利用されている方が多く、リフト付きの車両は本当に必要不可欠なものです。全国の皆様のご協力によって寄贈していただいた車両ですので、大切に運用させていただきたいと思えます。本当にありがとうございました。

(くろしお作業所 川崎 愛香)



はぐるま共同作業所和の杜
岡畑 紀子

はぐるま共同作業所和の杜に入って9年が過ぎました。思えばアーツという間です。初めて和の杜に来てみんなに挨拶をしたときの、仲間の笑顔が眩しくエネルギーで温かくて、そんな和の杜の仲間に私は圧倒されてしまいました。その日からこの和の杜という作業所で自分には一体何が出来るのか自分の役割とは何か、仲間たちに仕事を教えてもらいながら、一緒に仕事をしながら、仕事を伝えながら、時間の経過とともに日々自分に問いかけて今も過ごしております。麦の郷の「ほっとけやん精神」は私が和の杜で仲間たちと過ごす中でとても大切にしている思いです。これからも和の杜に来て初めて出会った仲間たちの笑顔と初心を忘れることなく、就労支援を通じて仲間たちとともに元気に楽しく柔軟に、お客様に喜んでいただける商品作りを行い、歩んでいきたいと思っております。



年賀状印刷
承ります
麦の郷印刷

TEL.073-464-3707
FAX.073-464-3708